

COVID-19 パンデミック下における感染管理を担う看護職リーダー育成
ーオンライン研修を導入した感染管理スキルアップ研修会の意義ー
キーワード：COVID-19，パンデミック，感染管理，看護職，オンライン研修

武田千穂¹⁾ 邊木園幸¹⁾ 勝野絵梨奈¹⁾ 栗原保子¹⁾

1) 宮崎県立看護大学

I. はじめに

2022年3月現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、あらたな変異株の出現によって刻一刻と変化し続けている。日本においても、感染拡大の第6波を迎えており、2年以上続くパンデミックは収束の兆しが見えない状況である。国民の健康と生活を守るために常に危機感を高めながらこれらに貢献している医療施設においては、多職種や地域と連携した持続的かつ組織的な感染管理の推進が重要であり、その中でも看護職の存在は不可欠である。科学的知見が明らかとなり、都道府県毎にまん延防止等重点措置が適用されるなど、地域の医療提供体制ステージに応じた感染対策へとシフトしている現状や、今後も発生し得る新興感染症対策に向けた医療体制の整備の重要性からも、地域や医療施設で感染管理を推進できる看護職のリーダー育成は、継続した課題であるといえる。

これまで我々は、2014年度から、医療機関で感染管理を推進できる看護職リーダー育成を目的とした研修会を継続して実施しており、実践型教育プログラムの有用性を報告してきた(栗原, 勝野, 武田, 他 2018)。それらの成果を踏まえて、2018年度からは、看護職リーダー育成および感染管理の質向上に向けた感染対策チームの組織化や活性化を支援できることを目的とした「感染管理スキルアップ研修事業(Ⅱ)ーリーダー育成および感染対策チーム活性化支援への取組ー」を実施している。そのような中、2020年度においては、WHOによる新型コロナウイルス感染症のパンデミック認定(2020年3月)、日本での緊急事態宣言発令(2020年4月)などの背景から、県内各地の医療機関に所属する看護職が1会場に集っての研修は、相互に感染リスクを伴うことや、3密(密閉・密集・密接)を避けソーシャルディスタンスを確保しながら研修会を実施することが困難と判断し、研修会の開催を中止することとなった。しかし、多くの教育現場では、ニューノーマル時代に適応しながら、オンラインツールを活用した授業や演習を実施しており、その成果を報告している(星, 2021; 桑原, 2021; 松山, 2021; 但馬, 2021; 虫明, 2021; 八木, 2021)。

そこで、新型コロナウイルス感染症が感染拡大している状況においても、医療現場で感染管理を推進できる看護職の育成は喫緊の課題であることから、2021年度は、受講者の健康と安全を確保することを前提に、本来の集合研修にオンライン研修を導入した感染管理スキルアップ研修会を実施することとした。

II. 研究目的

本研究の目的は、新型コロナウイルス感染症パンデミック下にも、感染管理を推進できる看護職のリーダー育成を目的に開催した、集合研修にオンライン研修を導入した感染管理スキルアップ研修会の意義を検討することである。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究デザイン：独自に作成した調査票を用いた無記名自記式調査研究

2. 研究対象者

A 県内の医療施設で感染管理に関する役割を担う看護職で、看護管理者の推薦を受け研修会に参加した31名である。

3. データ収集方法

感染管理スキルアップ研修会の初回開催をオンライン研修とした。初回開催1週間前に研究対象者宛てに、研究協力依頼説明書と無記名自記式調査票一式を郵送した。書面で研究の趣旨や目的、研究参加は自由意思であり参加途中での中止や不参加による不利益は生じないこと、参加に同意する場合は、回答後の調査票を下記の方法で投函した時点で研究参加に同意したものとすることを説明した。

1) オンライン研修：無記名自記式調査を郵送法で行った。各オンライン研修の受講後に回答した調査票を、返信用封筒にまとめて入れて投函した時点で研究参加に同意するものとした。

2) 集合研修(実践報告会)：無記名自記式調査を留置法で行った。受講前後に回答した調査票を、封筒に入れて研修会場の回収箱に投函した時点で研究参加に同意するものとした。

4. 調査内容

1) 基本属性：看護職の実務経験年数、役職、所属施設の病床数

2) オンライン研修の項目毎に受講前後の「理解度」および「重要度」、集合研修(実践報告会)の受講前後の「重要度」について、5段階リッカート尺度で設問した。

理解度の設問は、受講前を「理解していたか」受講後を「理解できたか」とし、受講前を「5:理解していた 4:まあまあ理解していた 3:どちらでもない 2:あまり理解していなかった 1:理解していなかった」とした。受講後を「5:理解できた 4:まあまあ理解できた 3:どちらでもない 2:あまり理解できなかった 1:理解できなかった」とした。

重要度の設問は、受講前後で「感染管理において重要だと思うか」とし、「5:重要 4:まあまあ重要 3:どちらでもない 2:あまり重要ではない 1:重要でない」とした。

3) 各研修項目の受講後における学びや研修方法に関する自由記述

各研修項目の受講後における学びや感想、集合研修(実践報告会)後の学び、オンライン研修の方法に関する受講後の感想の自由記述とした。

5. 調査期間：2021年5月～2021年10月

6. 分析方法

1) 基本属性は単純集計を行った。

2) 「理解度」および「重要度」は点数化して単純集計を行い、各平均値を受講前後で比較しt検定を行った。

3) オンライン研修に関する感想の自由記述は、効果的な学びに繋がる方法だったと捉えられる記述をメリット、それ以外の記述をデメリットとして分類を行った。

4) 集合研修(実践報告会)の学びに関する自由記述は、質的帰納的分析を行った。実践報告会での学びに関する文章を文脈上の意味を損なわない範囲で区切り抽出しコードとした。コードの内容の共通性・相異性を比較・照合して抽象化を進め、その特徴を表すネーミングを付与し、サブカテゴリとした。さらに、サブカテゴリの共通性・相異性を比較・照合して抽象化を進めネーミングを付与しカテゴリとした。

7. 倫理的配慮

宮崎県立看護大学研究倫理委員会の承認を得た(第 30-18 号)。

IV. オンライン研修を導入した 2021 年度感染管理スキルアップ研修会の概要

1. 目的：感染管理の知識・技術を修得し、多職種と連携しながら組織的なチーム活動を推進できる看護職リーダーを育成する。

2. 対象：A 県内の病院に所属する看護職

3. 受講者：31 名(定員 30 名)

4. 受講要件：①看護師または助産師の実務経験 5 年以上、②リンクナースとして活動している、またはその任にあたる者、③すべての研修日程に参加できる者、④看護管理者からの推薦を受けることができる者(推薦書の提出要)

5. 研修期間：2021 年 5 月 24 日～2021 年 10 月 23 日

6. オンライン研修の受講方法の案内

受講者に、YouTube での動画視聴方法、Microsoft Teams を活用した受講方法を文書で案内した。Microsoft Teams を用いたオンライン研修受講に向けて、まず、受講者(所属施設等)のメールアドレスを登録した。次に、テスト用 URL を用いて受講者の希望日時にカメラや音声の接続テストを行い、受講環境を確認した。講義資料は事前に郵送した。

7. 展開

講義、演習(所属施設の課題改善計画立案)、受講者の所属施設での計画に基づく各課題改善実践、実践報告会の 4 段階で構成した(表 1)。A 県に発令される警報段階に応じて、開催方法を検討した。要件を満たした受講者 31 名に修了証を発行した。

表 1 感染管理スキルアップ研修会の展開

段階	内容	時期	開催形式	A 県の警報段階
オンライン研修受講方法の案内(受講者および推薦者)と講義資料の郵送				
1	講義(9項目)	5月～6月	・YouTube 動画配信型研修 (オンデマンド型) 受講者限定配信 ・同時双方向型研修 Microsoft Teams ^{※1} を活用	5月9日～31日 県独自緊急事態宣言
2	演習(1項目) ・所属施設の課題改善 計画立案	・6月末	・同時双方向型研修 オンラインでの個別面談 一人約 60 分 Microsoft Teams ^{※1} を活用	8月6日～8月26日 県独自緊急事態宣言
3	所属施設での実践	7月～9月	各所属施設での実践	8月27日～9月30日 まん延防止等重点措置
4	実践報告会	10月	集合研修	

※1 Microsoft Teams とは、マイクロソフト社が提供するクラウドサービス「Microsoft 365」に含まれるサービスであり、宮崎県立看護大学が全学的に運用する学習管理システムである。

8. 感染管理スキルアップ研修会プログラム概要

感染管理スキルアップ研修会は次のプログラムに沿って実施した。日時、方法、研修項目・内容・YouTube 動画再生回数を示す(表2)。初回からオンライン研修で開始したため、研修会の趣旨や目的への理解を深める導入を行った。

表2 感染管理スキルアップ研修会プログラム概要

段階	日時/方法	項目	内容	時間(分)	YouTube再生回数
1	1回目/2回目 YouTube オンライン研修 動画配信型 (オンデマンド型) <配信期間> 5月24日(月)~ 6月6日(日)	事業代表者挨拶 (受講時の説明)	・研修会の趣旨や目的 (受講時の注意事項) (著作権や個人情報保護等)	15	65回
		医療機関で感染を起こしやすい微生物	・医療機関で医療関連感染を引き起こす微生物の特徴の理解と耐性菌対策等	60	35回
		感染症法に基づく組織的な実践 ~新型コロナウイルス感染症対策~	・感染症法や新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、組織的に感染管理を推進する方策等	30	42回
		演習ガイダンス	・所属施設における感染管理上の課題の抽出とその改善に向けた計画立案 ・実践報告会までのスケジュール等	30	59回
		標準予防策	・根拠に基づく標準予防策の実践や指導への意識を高める講義 ・自己評価ツールの紹介 等	60	41回
		接触感染予防策	・感染経路別予防策の原則 感染伝播を最も起こしやすい接触感染やエアロゾル感染の概念と対策等	15	59回
		飛沫感染予防策 新型コロナウイルス感染症対策等 空気感染予防策 結核対策等	・COVID-19対策の実際 入院患者受け入れ時の感染対策やゾーニングの実例等 ・結核指定医療機関における結核対策の実際等	90	82回
3回目 Microsoft Teams オンライン研修 同時双方向型 6月7日(月) 9:00~16:30	高齢者(認知症患者)、 精神科領域における感染対策	・高齢者や精神科領域の特徴を理解し、実践可能な感染対策を事例と共に理解する	90		
	サーベイランス基礎編 手指衛生サーベイランス	・手指衛生サーベイランス(使用量)の修得を目指した講義と事例演習	90		
	感染対策チームの組織化と地域連携の実際	・感染対策チームの組織化や感染防止対策加算の算定に向けた取組事例等	180		
2	4回目 Microsoft Teams オンライン研修 同時双方向型 個別面談 ・支援者1名あたり 受講者4~5名担当 6月21日(月) 9:00~16:30	課題の計画書作成	・所属施設の感染管理上の課題を明確化し、改善に向けた計画書を立案 ・県内の感染管理認定看護師と学内教員(合計7名)が支援者となり、オンライン上で個別面談を実施。受講者の所属施設の現状に則した実践可能な計画となるように支援	終日	
3	7~9月 受講者の所属施設で、課題改善計画に基づき実践				
4	5回目 集合研修 10月23日(土) 9:00~16:30	実践報告会 発表8分 質疑応答5分 講評	・実践した成果を共有 ・計画書作成の際に支援した感染管理認定看護師が参加し、受講者の継続した実践に向けて個別に助言を行う ・発表形式:Power pointでの口説発表	終日	

9. 実践報告会

2021年10月、新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数が全国的に減少傾向となり、宮崎県に適用されていたまん延防止等重点措置が解除された。また、宮崎県の新型コロナワクチン接種率が1回目67%、2回目58.7%(分母:ワクチン対象者)となった時期であったことから、感染対策(健康観察票の提出、座席の指定、ソーシャルディスタンスの確保、定期的な換気等)を実施し集合での実践報告会を開催した。全員が発表を行った(発表8分、質疑応答5分)。演題は標準予防策や手指衛生(サーベイランスを含む)等であった(表3)。

表3 実践報告会演題

項目	演題
標準予防策	標準予防策に対する意識調査 ～知識確認を行う前後での行動変化について～
	救急車対応時の標準予防策の環境作り
	B病棟における標準予防策習慣化への取組～喀痰吸引時の正しいPPE着脱方法の習得に向けて～
経路別予防策	感染経路別の表示と対応についての取組 ～精神科での隔離対応～
手指衛生	手指衛生の遵守率向上への取組
	手術室看護師のゴーグル装着の必要性を理解し実践に向けた取組
	介護老人保健施設における手指衛生向上の取組～共通認識し適切なタイミングで実践するために～
	手指衛生の適切な実施に向けた取組 ～適切な使用量と手指衛生の5つのタイミングに焦点を当てて～
	手指消毒剤の使用状況の確認と促進
	精神科病棟職員の手指衛生向上への取組
サーベイランスを含む	擦式アルコール製剤使用回数向上に向けた取組
	小児科外来における手指衛生遵守の取組～5つのタイミングに焦点を当てて～
	手指衛生サーベイランスの取組に向けて
	手指衛生遵守率向上に向けた取組
	精神科病棟における手指消毒衛生の遵守率向上
	当病棟における手指衛生使用量の現状と課題 手指消毒における当病院の現状把握とサーベイランス
個人防護具	採血時の手袋装着の遵守に向けた取組
	手術室における外回り看護師の手袋着脱のタイミングについて
新型コロナウイルス感染症対策	新型コロナウイルス感染症濃厚接触障害児(者)受け入れのための実行性と質を高めるための取組
	職員のCOVID-19院内発生を想定した感染リンクナース内での訓練
	新型コロナウイルス感染症におけるPPE着脱手順の遵守率上昇に向けた取組
	次期感染症患者受け入れ病棟看護師のPPE着脱技術の習得に向けた取組
オムツ交換PPE遵守	おむつ交換時の感染管理定着へ向けての取組
	おむつ交換時の個人防護具の適切な着用とその際に伴う手指衛生の遵守に向けての取組
	排尿・排液廃棄時の個人防護具装着遵守率向上に向けた取組
感染防止技術	回腸導管術後のウロストミー管理の手技統一への取組
尿路感染予防	急性期病棟における適切な膀胱カテーテル留置に向けた取組
環境整備	救急外来(内科)の環境整備
	院内感染対策に関する環境整備への取組
ICT活動組織化	院内抗菌薬適正使用を監視するための体制確立に向けて

V. 結果

1. 研究対象者の基本属性

研究対象者は31名(31施設)、看護師の実務経験平均年数16.5年だった。役職は、看護師長10名(32.3%)、副看護師長3名(9.7%)、スタッフ18名(58.0%)だった。全員が、所属施設の感染管理上の役割(リンクナース等)を担っていた。対象者の所属施設の病床数は、100床未満が10名(32.3%)、100床以上200床未満が12名(38.7%)、200床以上300床未満が2名(6.4%)、300床以上が7名(22.6%)だった。

2. 研修プログラム毎の理解度・重要度得点

講義内容毎に、受講前後における理解度・重要度の平均値を算出した。すべてにおいて、受講前と比較し、受講後の平均値が高くなっていた。「サーベイランス(基礎編)」、「高齢者・精神科領域における感染対策」の重要度では、受講前後と比較し有意な差が認められた(表4)。

表4 研修プログラム毎の理解度・重要度平均値の受講前後の変化

プログラム		n	理解度得点平均値 (SD)		重要度得点平均値 (SD)	
			受講前	受講後	受講前	受講後
感染管理の基礎	微生物概論 -病院感染をおこしやすい微生物-	31	2.61(1.15)	4.32(0.98)	4.32(0.60)	4.87(0.43)
	感染症法に基づく組織的な実践	31	3.39(0.84)	4.40(0.56)	4.77(0.50)	4.90(0.30)
	演習に向けてのガイダンス	31	2.42(0.85)	4.35(0.55)	3.77(0.99)	4.68(0.60)
標準予防策 感染経路別予防策	標準予防策 講義	31	4.00(0.63)	4.58(0.50)	4.77(0.62)	4.90(0.30)
	感染経路別予防策/接触感染予防策	31	3.77(0.76)	4.52(0.51)	4.74(0.63)	4.90(0.30)
	飛沫・空気感染予防策	30	3.43(0.86)	4.53(0.51)	4.80(0.48)	4.80(0.41)
その他	高齢者・精神科領域における感染対策	31	2.65(1.02)	4.45(0.62)	4.10(0.83)	4.74(0.51)*
	サーベイランス(基礎編)	30	2.53(1.17)	4.66(0.48)	4.13(1.11)	4.90(0.31)*
	ICT組織化	30	2.60(1.00)	4.52(0.51)	4.17(0.83)	4.83(0.38)

プログラム	n	重要度得点平均値 (SD)	
		受講前	受講後
実践報告会	31	4.58(0.62)	4.71(0.46)

* P<0.05

3. 実践報告会での学びに関する自由記述

実践報告会での学びに関する自由記述から、54コード、10サブカテゴリ、《課題改善の手応え》、《継続した実践への意欲》、《他施設の取組みや助言を活かしたい》、《自己のスキルアップへの意欲》の4カテゴリを抽出した(表5)。

表5 実践報告会での学び

カテゴリ	サブカテゴリ	コード(54)
課題改善の手応え	研修を機に課題が改善	知識不足のため改善できなかったことが今回の研修参加で問題点を見出すことができ少しずつ改善できた
		現状分析から、所属病棟の指導を実施し、それに対する結果が見られたので研修に参加して良かった
	多職種連携による成果を実感	所属施設の特徴や自身の役割にあった課題を見つけ、業務と平行しながら実践し発表まででき良かった
		総師長、病棟スタッフ、他部署スタッフの協力があったからこそ報告会を迎えることができた
継続した実践への意欲	他施設の取組みを所属施設での実践に繋げる意欲	師長、副師長に協力をもらい課題に取り組んだが、様々な病院の発表を聞き多職種連携の大切さを知った
		スタッフに協力してもらいながら、実践できて良かった
		改善のために、自分が思っていた以上にスタッフが協力してくれたことに気付いて良かった
		他の施設での取組みを自施設でも行いたい
	継続した活動への意思	当院でも手指消毒サーベランスの取組みを、消毒剤使用量アップのために実施したい
		自施設でも取り入れることができそうな取組みがあり参考になった
		様々な施設からの発表を聞いた事で、今後当院でも参考に出来る事があるのが分かった
		各病院の取組みや問題点を知ることで、自分の病棟でも取り入れていきたいと思う事が多かった
		参考にできるところを少しずつでも自施設に取り入れていきたいと思う
		自分の病院でも生かせる内容のものが多く、実際に実践したいと思った
他施設の取組や助言を活かしたい	他施設の取組みが参考になる	勉強会での学びを、施設の感染症対策に向けて情報共有していきたい
		今後の課題がわかったので、次につなげていきたい
		自病院での、今後必要な取組みが概ね明確化できた
		今回の結果で満足せず継続して取り組んで行きたいと思った
	他施設の取組や助言を活かしたい	今後も問題点の改善に取り組んでいきたいと思う
		今回の研修を活かし、今後も活動していきたい
		どの施設の発表からも学ぶことができ、今後参考にさせて頂きたいと思った
		他施設の取組み内容を聞いて、とても参考になることが多かった
		他の科の方の発表を聞く事が出来、いろいろな面で参考になった
		すべての発表を聞くことはできなかったが、それぞれの施設での取組みを知り参考になった
自己研鑽への意欲	他施設の課題に共感する	他施設での取組みを知ることが出来て多くの学びがあった
		他施設の研究発表を聞き、当院での問題点や解決方法など参考となった
		様々な取組みを聞いて、他施設がどのような課題をもっているのかがわかり参考になった
		多岐にわたる部門からの発表を聞くことができ、非常に勉強になった
	自己研鑽への意欲	他の病院の発表を聞いて、とても参考になった(2)
		学びの多い研修であった
		興味深い内容もあり、面白かった
		シミュレーションの大事さに気づいた
		他の方の資料や、オンラインでの勉強会開催などの取組みの工夫点が参考になった
		プレゼン資料が工夫がされているものが多く、発表時間も含めて集中して聴くことができた
自己のスキルアップへの意欲	自身の取組みに対する助言への感謝	手指消毒について取組んだが、他の方の研究テーマや実践を聞くと、当院でも問題と感ずることだった
		他施設でも同じような悩みの中活動していることが分かり、今後の取組みへの力になった
		他の病院での感染の問題点や改善を聞くことができ学びになった。自身の病院の現状によく似た施設の話も聞いて良かった
		自部署で抱えている問題、課題と重なる点も多く参考になった
	自己のスキルアップへの意欲	感染管理認定看護師の的確な意見や講評は参考になった
		講師の方々のアドバイスがとても参考になった
		講評の先生が発表者1人1人にご意見をくださったことに感謝したい
		スタートラインは違っても、目的や目標は同じなんだと感じる事ができたので、これからさらにステップアップしていきたいと強く思った
		この様なチャンス頂けて、私も一歩スキルアップできたと思う
		今回、研修に参加させて頂き、感染のことに興味を持った。更に勉強していきたい
受講者間の情報共有へのニーズ	発表スキルを自己分析	感染に対して強く関心があるためこのような研修に参加できて良かった
		発表するのは緊張したが、いい経験になった
	発表スキルを自己分析	発表が思いのほか緊張してしまい、伝える事が出来たか不安だった
		人に立つ事が苦手なので緊張してきちんと伝えられたか心配だった
発表スキルを自己分析	他の施設の方の発表を聞き、自分の知識不足やレベルの違いを実感した	
	他の発表が上手くまとまっており、自身の取組みと比較しながら聴けてよかった	
発表スキルを自己分析	オンライン研修だけではなく、全員でグループワークなどができていれば、もっと別の課題への取組みも検討することが出来たのかなと思った	
	報告会等では、もっと活発に意見交換ができればよかった	
発表スキルを自己分析	感染対策の都合上2会場に分かれていたが、もう一方の会場の発表も聞きたいと思った	

4) オンライン研修に対する自由記述

オンライン研修の方法に関する自由記述から、「3 蜜が避けられて安心」や「時間に拘束されず受講ができる」などのメリットや、「操作方法の戸惑い」などのデメリットの意見があった(表 6)。

表 6 オンライン研修に関する感想 メリット・デメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・3 蜜が避けられるため安心して受講できた ・時間を有効に使うことができた ・時間に拘束されることなく講義を受けることができて良かった ・聞き取れなかった時は、一時停止にしてメモすることができた ・同時双方型研修は、他の受講者の顔が確認できて良かった ・効率的だった ・県内各地から参加するので研修会場への移動の負担がないと感じた ・集合研修では緊張して質問できないが、質問しやすかった ・時間の余裕があり、他の受講者の意見を聞いて考えることができた ・リモートという形式でも研修が受けられて良かった ・個別面談では、相談がしやすかった
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法に戸惑った(2) ・カメラに映っているのか、正しく作動しているのかわからず不安だった ・発言ができなかった ・時々接続状況が不安定だった ・受講者同士の情報共有の時間を確保してほしかった(2) ・集合教育の方が、理解が深まると感じた

VI. 考察

本研修会では、すべての項目の受講前後において「理解度」および「重要度」の平均値が高まっていた。

YouTube による動画配信型研修では、すべての項目の再生回数が受講者数 31 名よりも多く、同じコンテンツを何度も繰り返し聴講していたことや、オンライン研修に関する感想に、「時間を有効に使うことでできた」「聞き取れなかった時は一時停止にしてメモをすることができた」等とあるように、受講者各自のペースでの主体的な学習に繋がっていたことは、知識習得の手段として効果的だったといえる。これらのことから、知識の習得を目的とする内容であれば、動画配信型研修においても、目的が達成できると考えられた。

Microsoft teams を活用した同時双方向型研修では、「高齢者・精神科領域における感染対策」の「重要度」において受講前後の平均値が有意に高まっていた。多くの高齢者施設で、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生している背景があることから、身近な課題として、感染対策の重要度への意識が高まったと推察された。

所属施設の課題改善への取り組みでは、Microsoft teams を活用した同時双方向型個別指導による課題改善計画書立案を行った。感染管理認定看護師または大学教員と受講者による 1 対 1 での個別面談では、所属施設の現状に見合った課題の抽出と、改善に向けた実践可能な計画立案を支援したことから、所属施設での実践や実践報告会での発表に繋がったことは、本研修会の成果と評価できた。特に、実践報告会の 31 演題のうち 13 演題がサーベイランスを含む手指衛生に関する報告であった。そのことは、同時双方向研修の「サー

ベイランス(基礎編)」の「重要度」において受講前後の平均値が有意に高まっていたことが示すように、感染対策の成果を数値で示していくことへの重要性への意識が高まったことでより多くの報告(演題)に繋がったと推察された。唯一、集合研修で開催した実践報告会での学びにおいて、カテゴリ「課題改善の手応え」を実感できていたことは、課題改善計画が所属施設の現状に見合った実践可能な計画であったと推察されることから、Microsoft teamsを活用した同時双方向型個別指導が効果的であったと考えられた。また、カテゴリ「継続した実践への意欲」や「他施設の取組や助言を活かしたい」という思いは、集合研修によって相互の成果を共有する機会がもてたことや、コード「感染管理認定看護師の的確な意見や講評は参考になった」のように感染管理認定看護師らの助言を通して自覚され、そのことが「自己のスキルアップへの意欲」に繋がっていたと推察された。

しかし、本研修会は、実践報告会以外はすべてオンライン研修であった。星,堀内,橋本,他(2021)は、オンライン研修のデメリットとして参加者同士の交流ができないことを指摘している。今回のオンライン研修においても、サブカテゴリ「受講者間の情報共有のニーズ」とあるように、受講者同士の情報共有のニーズが明らかとなった。また、同時双方向型研修について、「発言ができなかった」、「受講者同士の情報共有の時間を確保してほしかった」などの意見もあった。八木,村上,都竹,他,(2021)は、看護職に対する遠隔授業を円滑に実施するには、質問・相談・意見交換ができる環境設定をすることが効果的であると述べていることから、今後は、オンラインツールのグループワーク機能を活用することや、チャット機能を活用した質問を受け付けるなどの工夫が必要である。但し、「操作方法来戸惑った」などの意見もあったことから、オンライン型研修での受講者間の情報共有においては、受講者の背景を踏まえたうえで、具体的な操作方法などを説明していく必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下における開催について、「安心して受講できた」や「移動の負担がなかった」という意見があった。受講者が医療現場で新型コロナウイルス感染症対策に従事している看護職であるという点において、オンライン型研修は受講者自身や所属施設に配慮した方法であったと考える。

これらのことから、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で、感染管理を担う看護職リーダー育成を目的に開催した、集合研修にオンライン研修を導入した感染管理スキルアップ研修会では、受講者が感染管理に関する知識を習得し、それらを通して所属施設の課題改善に取り組むことができた。それによって、感染管理担当者としての自覚や、継続した実践と専門性を修得することへの意欲を高めることができていたことから、研修会の目的を達成できたと捉えることができた。

VII. 結論

新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で、感染管理を担う看護職リーダー育成を目的に開催した感染管理スキルアップ研修会では、感染流行の警報段階に応じてオンライン研修を導入しながら展開したことで、受講者の健康と安全を確保することができた。また、感染管理に関する知識を習得し、それらを通して所属施設の課題改善に取り組んだこと

で、リーダーとしての自覚や、継続した実践と専門性を修得することへの意欲を高めることができた。今回のオンライン型研修では、受講者同士の情報共有の工夫が課題となったが、メリットを活かしながら、研修目的が達成できる方法を模索していくことが求められた。

VIII. 本研究の意義と限界および今後の課題

新型コロナウイルス感染症のパンデミック下に、集合研修にオンライン研修を導入して開催した感染管理スキルアップ研修会は、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染対策に貢献できる人材育成に繋がった点において意義があったと考える。しかし、研究対象者が A 県内の感染管理担当者 31 名である点や、研究対象者のオンライン研修を受講する環境が一定ではない点において一般化するには限界がある。

今後は、オンライン研修のメリットを活かしながら、研修会の目的や内容に応じて、ハイブリッド型研修を導入するなど、ニューノーマル時代の効果的な研修会開催に取り組んでいきたい。また、今後も発生し得る新興感染症に対して、根拠に基づき柔軟に対応できる看護職の人材育成に継続して取り組んでいくことが課題である。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。なお、本研究における利益相反はありません。

文献

- 星紫織, 堀内寿志, 橋本賢勇, 他 (2021) : Web システムを利用したオンライン研修会の試み, 医学検査, 7(1), 123-127.
- 栗原保子, 勝野絵梨奈, 武田千穂, 他 (2018) : 感染管理における看護師リーダー育成を目指した実践型教育プログラムの成果, 宮崎県立看護大学紀要, 18(1), 30-40.
- 桑原まゆみ, 永瀬つや子, 松岡あやか, 他 (2021) : 新型コロナウイルス感染症拡大状況下における母性看護学演習の実践報告, 南九州看護研究誌, 19(1), 11-16.
- 松山奏 (2021) : 新型コロナウイルス感染症流行下における自治医科大学のリモート教育, 月間地域医学, 35(7), 625-629.
- 但馬真理子, 飯田恵子, 井田歩美 (2021) : COVID-19 禍における遠隔授業の実践報告ー単元「分娩介助技術」に取り入れた反転授業の振り返りー, 摂南大学看護学研究, 19(1), 21-28.
- 虫明昌一, 高橋ユカ, 十河浩史 (2021) : Web 会議システムを利用したオンライン研修会の可能性と課題 - コロナ禍での医療系事務職員の取組みを通じた検討-, 川崎医療福祉学会誌, 31(1), 296-276.
- 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 都竹茂樹, 他 (2021) : 遠隔実習における看護職の自己調整学習傾向と学習支援, 医学教育, 52(1), 9-17.